

単元名 ひびき合いを生かして

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の重なりなど音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各声部や全体の響きを聴きながら演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 音の重なる響きや旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070201_001

【教材名】ロック マイ ソウル (歌唱) カノン (鑑賞 器楽) (P. 24～P. 27)

【準備等】範唱CD, 鑑賞CD, リコーダー, 鉄琴, 木琴, シンセサイザーなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ロック マイ ソウル」の声の重なりや響きの組み合わせの楽しさを感じ取って表現する。</p> <p>★せん律を組み合わせて声のひびき合いを楽しもう</p> <p>○「ロック マイ ソウル」の範唱を聴き、曲想をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア イ ウの旋律の歌詞唱や階名唱をする。 ・パートの分担を決めて練習する。 ・歌の演奏形態について理解する。 <p>○「ロック マイ ソウル」の三つのパートを合わせて声の響き合いを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの音量のバランスを考えながら歌う。 ・強弱や速さをいろいろ変化させ、自分たちの気持ちに合った歌い方を話し合って工夫する。 ・演奏する側と鑑賞する側に分かれ、お互いの演奏を聴き合う。 <p>○歌のいろいろな形態について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独唱、斉唱、重唱、合唱について理解する。 <p>○グループごとに表現をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに工夫した演奏を発表し、聴き合う。 <p>○「カノン」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表する。 ・同じ旋律の繰り返しや追い掛け合い ・いくつかのパートが重なってもにぎらない ・「かえるの合唱」との共通点 など <p>○「カノン」のアの部分をリコーダーで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴き、アの部分を階名唱して、楽器で練習する ・子どもが1, 教師が2で追い掛けて演奏して聴かせる ・クラスを三つに分け、1と2のグループでアを演奏する。 ・1 2 3のグループでアを演奏する。 <p>3～4 旋律の繰り返しや重なりから生まれる響き合いを生かして「カノン」を演奏する。</p> <p>★せん律の動きや重なりをきき合って演奏しよう</p> <p>○「カノン」のイの部分を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの1パートを練習する。 ・イの2パートを練習する。 ・二つのパートを合わせて演奏する。 <p>○「カノン」の終わり方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の演奏の仕方を見ながら、各グループに分かれイ→オ、ウ→オ、エ→オで終わる練習をする。 <p>○「カノン」を最初から通して繰り返し演奏する。</p> <p>○「カノン」をグループに分かれて合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中でどんな演奏にするのか話し合い、拍の流れやバランスに気を付け、楽器の音色や強弱を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピリチュアルについて簡単に触れる。 ・音楽と言葉を合わせ、リズムにのって歌えるようにさせる。 ・グループごとにいろいろな演奏パターンを工夫させる。 <p>【共通事項】音楽の縦と横の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【共通事項】強弱 音楽の縦と横の関係 <p>【評】旋律の重なりを意識しながら歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に「ロックマイソウル」で4つの演奏形態を試してみてもよい。 ・アフタービートでリズムを感じるようにすると、強弱や言葉の抑揚が付けやすい。手拍子を入れさせてもよい。 ・アフタービートについて、行進曲などと比較し、脅迫・弱拍の関係に触れると理解しやすい。 ・「カノン」の意味について知らせる。 <p>【評】曲想と声部の重なりなど音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の見方、演奏の仕方を説明する。 ・リコーダー以外の楽器でもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が範奏して聴かせる。 ・拍に合わせて二部合奏したり、パートを交代して合わせたりしながら、繰り返し演奏させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・【共通事項】音楽の縦と横の関係 反復 変化 <p>【評】各声部や全体の響きを聴きながら演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で、上下パートと伴奏を分担させる。 ・伴奏はシンセサイザーや、木琴や鉄琴、ピアノやオルガンを使う。 ・伴奏できる児童が少ない場合は、一人の児童がいくつかのグループの伴奏をしたり、教師が担当したりする。 <p>【共通事項】音の重なり 拍</p> <p>【評】音の重なる響きや旋律の重なりを聴き取</p>

○グループごとに「カノン」の演奏を発表する。

り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・自分たちがどんなところを工夫したのかを伝えてから演奏する。
- ・友達の演奏のよいところや工夫したところを見付けるなど、目的をもたせてから取り組ませる。

【 備 考 】